

精華町の環境 2020（概要）

発行：令和●年●月 精華町 環境推進課

目標像 1 「人・社会」が自然の恵みに感謝し、 未来を育むまち～環境“幸”都～

自然の恵みに感謝し、地域に関わるすべての人が地域の環境を守り、未来を大きく育むまちをめざします。

主な取り組み紹介

環境学習の推進

●環境日記を作成

全国統一のパンフレットに追加して、本町の環境の取り組みを記載した環境日記精華町版を作成し、町内の小学4年生から6年生の全員に配布しました。

192人の児童に取り組みいただき、全国コンクールにおいて、団体の部で優秀賞2校、個人の部で14名が入賞（内、銀賞1名、銅賞7名）されました。



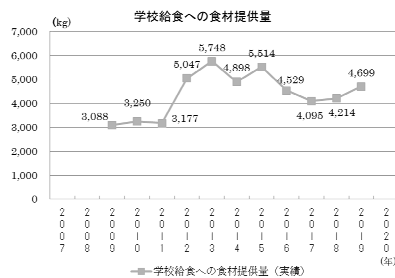
目標像 2 「里山・田畑・歴史文化」を守り、 継承するまち～環境“恒”都～

地域に関わるすべての人が里地里山とそこに息づく歴史文化を守り、伝え、継承するまちをめざします。

主な取り組み紹介

学校給食への地元産野菜の提供

●新鮮で安全
安心な農産物を子どもたちに提供できるよう、学校給食へ地元産野菜の納入を促進しています。



環境美化活動の推進

●『ポイ捨て』『ふん放置』『落書き』を禁止する「精華町まちをきれいにする条例」について、街頭啓発や広報誌・ポスター等による啓発活動を進め、町内5カ所で定点観測を実施しました。また、放置された場所に、チョークで、日時等の表示を始め、抑止力の向上に努めました。



美しい景観の充実

●きれいなまちづくりとして、町と各自治会長で構成する「精華町きれいなまちづくり運動推進協議会」で、花いっぱい運動や環境美化清掃活動を実施しました。

安全・安心な環境の確保

●町内河川の水質調査や学研地区進出企業への環境保全計画書の審査や立入調査などを実施しました。

目標像3 「資源・エネルギー」が健やかに巡るまち ～環境“康”都～

地域に関わるすべての人が資源とエネルギーを大切に、資源とエネルギーを有効に利用するまちをめざします。

主な取り組み紹介

ごみ減量・リサイクルの取り組み

●食品ロス削減キャンペーンの実施

「傷みやすい食品を、優先的に使う」、「すぐ使う食品は、冷蔵庫の目線の位置に置く」、「買い物前に、冷蔵庫を確認する」ことを、「食品ロス削減キャンペーン」として、各家庭において実践できる取り組みの周知・啓発を推進しました。

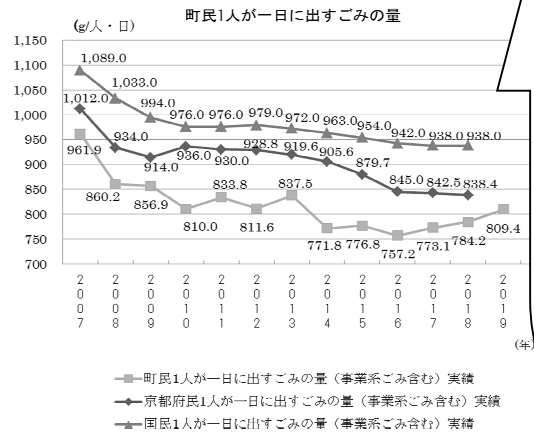
太陽光発電と蓄電設備の同時設置に対する補助

●住宅におけるエネルギー供給の自立化の促進

住宅用太陽光発電設備及び住宅用蓄電設備の同時設置者に対する補助を実施。京都府との連携による普及啓発に努めました。



循環型社会の構築



2008年度実施のごみ袋の透明化等への完全移行などにより減量化が進み、現在もその水準を維持していますが、増加傾向にあります。ごみの量は全国平均・京都府平均より少ない量です。

環境に配慮した交通手段の充実

●コミュニティバス(精華くるりんバス)の実証運行を行っています。

目標像4 環境で「生業(なりわい)」を目覚めさせ、 起こすまち～環境“興”都～

地域資源を活用した生業を起こし、また、地域全体で精華町の魅力を発信していくまちをめざします。

主な取り組み紹介

環境と産業及び研究機関の連携

●持続可能な社会の実現に向けた取り組み

京都・けいはんなからスマートシティを共創・発信し、持続可能な社会の実現に貢献するため、京都スマートシティエキスポを開催しています。環境・エネルギー、交通、健康などの分野とICT(情報通信技術)の融合による「『超快適』スマート社会」の創出は、新たな産業の創出に寄与すると考えられています。本町では、ICTを基盤とした産業に関する企業や研究者、住民の方などが多数集い、交流を図るこの京都スマートシティエキスポの運営に参画し、関係諸団体と連携して事業の進展を図りました。

環境と既存産業の融合

●新商品の開発による地産地消の推進

「精華町地域資源総合管理センター華工房」では、精華町内で生産された農作物をより付加価値の高い加工品として、消費者のニーズに応えるための研究開発を行い、地産地消を進めています。



精華町地域資源総合管理センター華工房